

ここでは、例題集の解答と解説についてまとめています。例題集を解いた後、こちらをご参照ください。

## 例題の解答

### 例題 1

### 資金別貸借対照表

平成 年 月 日現在

現金預金	(損益資金の部)			
2000	仕入	4000	売上	6000
1000	(固定資金の部)			
			資本金	1000
-3000	(売上仕入資金の部)			
	売掛金	6000	買掛金	3000
0	安定資金計			
	(流動資金の部)			
0	現金預金			(単位：千円)

#### 例題1 自己資本比率は50%

$$\frac{2000+1000}{6000} = 50\%$$

### 例題 2

### 資金別貸借対照表

平成 年 月 日現在

現金預金	(損益資金の部)			
2000	仕入	4000	売上	6000
-4000	(固定資金の部)			
	設備	5000		
			資本金	1000
4000	(売上仕入資金の部)			
			買掛金	4000
2000	安定資金計			
	(流動資金の部)			
2000	現金預金			(単位：千円)

#### 例題 2 自己資本比率は42%

$$\frac{2000+1000}{7000} = 42\%$$

例題3 資金別貸借対照表 平成 年 月 日現在

現金預金	(損益資金の部)		
2000	仕入	4000	売上
-1000	(固定資金の部)		
	商品	2000	
			資本金
			1000
1000	(売上仕入資金の部)		
	売掛金	4000	買掛金
			5000
2000	安定資金計		
	(流動資金の部)		
2000	現金預金		

(単位：千円)

例題3 自己資本比率は37%

$$\frac{2000+1000}{8000} = 37\%$$

ではどの例題の会社が、財政状況および財務体質がいい会社でしょうか。

すべて例題の自己資本は3000になっています、したがって制度会計上ではすべての経営成績は同じということになります。

ただ、ここで注意すべきなのは「本当に経営成績は同じなのか」ということです。

経営成績は、損益計算書で見、財政状況および財務体質は、貸借対照表で各別に見る。これが制度会計上の考え方です。これでいいと思いますか。

資金会計理論では、経営成績・財政状況および財務体質は、創業から今現在を一枚の表(資金別貸借対照表)に示すので、一目で理解することができるようになっていきます。

なお、例題1の問題の時点では④の部分は空欄でした。

例題1の会社には、企業内現金がないので、支払う現金が無いという結果に結びつきます。

では、④に現金4000 借入金4000の仕訳を入れてさらに計算してみましょう。

例題 1 - 2 資金別貸借対照表 平成 年 月 日現在

現金預金	(損益資金の部)		
2000	仕入	4000	売上
			6000
5000	(固定資金の部)		
			借入金
			4000
			資本金
			1000
-3000	(売上仕入資金の部)		
	売掛金	6000	買掛金
			3000
4000	安定資金計		
	(流動資金の部)		
4000	現金預金		

(単位：千円)

例題 1-2 自己資本比率は 33%

$$\frac{2000+1000}{10000} = 33\%$$

例題 1 と例題 1-2 どちらの会社が良い会社ですか。当然現金のある例題 1-2 がいいに決まっています。しかし、自己資本比率においては、例題 1 の企業がよいことになります。しかし、「自己資本比率が高い会社=いい会社」などということは単純ではありません。

では以上を踏まえて最後に質問です。例題 1-2 の内部現金、4000 の資金調達科目はなんのでしょうか。まさか借入金 4000 と答える人はいないと思いますが…。